

令和5年度第2回おおさかプラスチック対策推進プラットフォーム会議 議事概要

日時：令和6年3月22日（金）10:00～12:00

場所：咲洲庁舎41階会議室8（オンライン併用）

出席者：出席者名簿のとおり

1 各分科会の取組みについて

○事務局より、「両分科会の取組状況（資料1-1）」を説明。次に、地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所より、「令和5年度プラスチック被覆肥料殻の流出実態把握及び流出対策設備の効果検証（資料1-2）」の結果を説明。

【主なやり取り】

（原田准教授）2点質問があります。1点目は、JAで販売している流出防止策で使用しているネットを実際使用している農家はあるのか。2点目は、他の分解する素材で被覆肥料を開発している事例はあるのか、その普及状況を教えてほしい。

（環農水研）現状、1点目について、私の知るところ大阪府内でのネット使用は確認できていない。2点目について、現在、各メーカーが開発した代替肥料について、既存肥料と比較して収量、品質等に問題がないかを、試験場や農家の水田で確認している。そのため、大阪府内での販売事例はまだないと考える。全農様から補足があればお願いします。

（全農大阪）生分解性プラスチックについては、製造各社が開発中で、情報があり次第、大阪府と共有して進めていきたいと考えている。

（花田議長）被覆肥料95%のトラップは、優秀であると考えている。浅水代かきは、作業上で不便な点があるのか。

（環農水研）トラップ95%の効果は、水のオーバーフローの阻止につながったためと考える。中干し時の回収率低下は、前日までの降雨で水位が非常に高くなり、中干しでの落水で大量の水が一気に流れてしまったことにより、装置の横側から水のオーバーフローがあった為と考える。

作業・収量面では、浅水代かきと深水代かきの大きな違いは無いと考えている。

浅水代かきの普及が進まない理由は、大阪府内ではため池からの取水が一般的で、水利組合が管理し、取水時期が決められている。そのため浅水代かきのために取水量を減らしてしまうと、万が一干上がってしまった時に追加で水を入れることができない等のリスクを回避するために、深水代かきを選択している農家が多いと考える。

加えて、棚田では上から水を落として取水する為に取水量のコントロールが難しい。

機械面では農水研所有の機械では浅水で十分にかき混ぜられるが、各農家が所有している機械には、水の浅い場所ではうまくかき混ぜることが難しいため、浅水代かきへの転換が進んでいない理由と考えている。

（大阪大宇山教授）被覆肥料を年間470個入れて、2個流出を確認しているのであれば、残りは毎年蓄積しているということか。

（環農水研）毎年蓄積していると考えている。機械での粉碎によるマイクロ化や殻のままの浮遊等の蓄積は確認している。

(大阪大宇山教授) 被覆肥料がマイクロ化しているのであればトラップしないものもあるのではないかと。

(環農水研) 今回の実験では、肥料殻や半壊したものを回収できていると考えている。

(花田議長) 全農様より、各社しのぎを削って生分解性プラスチック被覆肥料を開発している情報があり大変心強い。

2 取組紹介

○ミズノ株式会社より、「人工芝グラウンドの環境配慮デザイン（資料2-1）」を紹介。

【主なやり取り】

(大阪大宇山教授) 環境対応型技術は良いものであるが、人工芝の耐久性や計時安定性について、メンテナンスを含めどのように考えているのか。伊藤園様のバイオマス系樹脂等を長く使っていく場合、樹脂の耐久性が悪くなるのではないかと。計時的安定性の問題をどのように考えているのか、可能ならば教えていただきたい。

(ミズノ) バイオ系のを多く加えると耐久性が悪くなる。一般的に人工芝の耐久性は10年目安とされているので、それを達成するために配合率等を検討している。多くすると環境負荷の低減にはなるが、製品の耐久性も下がるためバランスを検討している。

(大阪大宇山教授) 茶殻の使用は、伊藤園様等の企業の課題であるので良い取り組みと考える。

(花田議長) 茶殻の利用には、少しではあるが滅菌性があるとも聞いているが、人工芝でも効果を検討されているか。

(ミズノ) 開発開始時は検討したが、試験での実証が出ていないため、現在は考慮していない。

(花田議長) 人工芝は流出が多いので、ミズノ様が公園の指定管理を行っている場所への積極的な環境配慮型人工芝の拡大はされているか。

(ミズノ) 自社提案できる案件（プロポーザル案件等）については積極的に提案しているが、入札に関係する仕様の決まっている案件には関与できない。今後、まわりから環境配慮型提案に支援していただけるようお願いしていきたい。

(花田議長) 自治体の方が多く参加されている会議であるので、府営や市営の案件に関して環境配慮型提案を入札仕様にしてあげてほしい。

(事務局) 集水桝フィルターについて、自治体や企業でモニターのお声がけをいただければと思います。

(花田議長) 学校施設へのアプローチを進めていただければと思います。

(ミズノ) ありがとうございました。

○カムフル株式会社より、「サーキュラーエコノミーの実現を目指して（資料2-2）」を紹介。

【主なやり取り】

(花田議長) 本会議でも議題として実証実験（ガンバ大阪等とスタジアムでの回収、詰替えプラの回収）を行っているが、詰替えパックを持込む場所についてどこでもよいのか。

(カムフル) 神戸では神戸市を中心にダイエー、コープこうべ、ウェルシア、光洋等有志にお願いした。

(ユニリーバ) 自治体や駅ナカでの回収を行った。

(花田議長) 回収BOX置くだけでなく、20円相当のLINEポイントを付与している。LINEの活用についてはどうなっているか。

- (ユニリーバ) 公式アカウントへの登録から、購入時写真登録をして確認し、後日ポイントを提供する。
- (花田議長) 過去にリユース瓶を回収する事業をいろいろな飲料会社が行ったが、回収のところがネックになった。回収の新たな手法の紹介だと思います。
- (カムフル) インセンティブを与えるような事業の方に教育する合理性がある。
- (ユニリーバ) インセンティブを与えないようなスキームでは自治体に回収をお願いして、ポイントは発行していない。インセンティブを発生する事業では当社が持ち出しで、発行したポイントを付与しており負担も多いが、分別の精度や回収度には貢献できる。
- (事務局) カムフル様にはお世話になっていて、情報をいただいている。

○TOPPAN 株式会社より「サーキュラーエコノミー実現に向けた取り組み（資料2-3）」の取り組み状況を紹介。

【主なやり取り】

- (花田議長) 2018年の子供用のおむつの生産量が2010年比1.7倍となっている、大人のおむつ生産量の1.4倍は理解できるが、出生率が下がっている中で子供用おむつの生産量増加の理由は確認されているか。
- (TOPPAN) 個人的には子供用のおむつの生産量の増加は不思議である。資料は古いものであるが、衛生材料工業連合会発表によるデータを利用している。
- (花田議長) ペーパーチューブを活用した建物は実際に建築されているのか。
- (TOPPAN) 本件は自社のショールームで展示を、山梨県立富士山世界遺産センターには採用されています。また、一部施設で新たに採用される予定です。
- (花田議長) 紙糸について、リサイクル過程で製造コストがかかると思われるが、アップサイクルに適していると考えておられるか。
- (TOPPAN) コストは重要な要素と考えている。現在では主にネスレ日本様と六甲山の間伐材を用いて製作しているが事業化には及ばない。そこで一般社団法人を形成し模索している。
- 紙糸では、東京水引×TSUMUGIのアクセサリーへの活用で製品化ができていて、店頭販売、通販を行っている。しかしながら、開発・製造・販売全般を企業一社では運用できないため、色々な企業の利点を持ち寄り製品化して、一旦リサイクルの形を作り、サーキュラーエコノミーを形成することとしている。
- (花田議長) 海外へのお土産や輸出製品において、軽量な水引やアクセサリーが人気で、さらにストーリーをもった紙糸の活用は今後期待できると考えます。
- アップサイクルの普及には社会システムの変革が必要で、従来のコストに加えて環境価値が反映されるシステムになっていけばと考える。
- (カムフル) 再生和紙に関しては、無印良品様より販売されていて手触り等で非常に良いものや気候変動に対応した通気の良い製品が現在販売されている。廃棄米を用いたアクセサリーや広島折り鶴はインバウンドの方に評判が高い。東京駅の地下の販売店では海外観光客のお土産に多く買われている。
- (花田議長) 大阪でも例えば関空等で販売すると良いと思う。
- (事務局) 今後も連携の可能性について教えてください。

3 その他

次回開催 第1回全体会議 令和6年8月頃

<略称>

環農水研 地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所